

FTIR 分析計の賃貸借に係る契約書（案）

公立大学法人滋賀県立大学理事長 井手 慎司（以下「甲」という。）と（以下「乙」という。）とは、次の条項により FTIR 分析計（以下「対象物品等」という。）の賃貸借に関する契約を締結する。

（契約対象物品、設置場所および契約保証金）

第 1 条 賃貸借の契約対象物品、設置場所および契約保証金は次のとおりとする。

- （1）対象物品 FTIR 分析計 BOB-1000FT
- （2）設置場所 公立大学法人滋賀県立大学 工学部 C4-101
- （3）契約保証金 _____円

（賃貸借期間）

第 2 条 賃貸借の期間は、令和 7 年 1 1 月 1 0 日から令和 7 年 1 1 月 2 5 日までとする。

（賃貸借料）

第 3 条 賃貸借料は、総額金 _____円（うち消費税額および地方消費税額は金 _____円）とする。

- 2 甲が賃貸借期間の短縮を乙に申し出た場合は、乙は当該期間の短縮に努力するとともに、この契約の賃貸借料の算定基礎となった賃貸借料算定基礎年限を見直し、新たな賃貸借料算定基礎年限をもとに甲乙協議のうえ、賃貸借料を改定し、その額および支払方法を別に定める。

（賃貸借料金の請求および支払）

第 4 条 乙は、甲に対し前条に定める賃貸借料を賃貸借期間終了後に支払うものとする。

- 2 甲は、前項の支払い請求があったときは、正当な請求書を受理した日の翌月末までに支払うものとする。

（履行遅滞）

第 5 条 乙は、自らの責めに帰すべき理由により第 2 条の賃貸借期間開始日までに合格品を引渡しないときは、遅延数量に相当する契約金額に対し、賃貸借期間開始日の翌日から合格品を引渡するまでの日数に応じて政府契約の支払遅延防止等に関する法律第 8 条第 1 項の規定により財務大臣が決定した率で計算した金額を延滞違約金として甲に支払うものとする。

- 2 前項の違約金徴収日数の計算については、検査に要した日数は、これを算入しない。
- 3 甲は、第 1 項の延滞違約金のあるときは、これを第 3 条の賃貸借料および第 1 条の契約保証金がある場合は当該金額から控除し、なお不足するときは当該不足分を徴収するものとする。

（瑕疵担保責任）

第 6 条 甲は当該対象物品等に隠れた瑕疵があったときは、書面で乙に通知する。

- 2 前項の瑕疵があるときは、乙は対象物品等の売り主への請求権を、甲が受ける損害を防止する範囲内で、甲に譲渡できるものとし、乙はその善後処理に協力するものとする。

（対象物品等の保守）

第 7 条 乙は、対象物品等が常に完全な機能を保つよう、自己の負担において調整、修理または部品の交換等所要の保守（以下「保守」という。）を行うものとする。

- 2 甲の責に帰すべき事由により、保守を必要とするときの費用は、甲の負担とする。

(対象物品等の使用および維持管理)

- 第 8 条 甲は、対象物品等の使用および維持管理については、適切な環境の保持に努めるとともに、常に善良な管理者の注意をもって対象物品等を使用し、管理しなければならない。
- 2 乙は、甲に対し前項の適切な環境の保持について常に適切な助言を行う等これに協力するものとする。
 - 3 対象物品等自体ならびに対象物品等の設置、保管および使用によって第三者が損害を受けたときは、甲の責任において解決するものとし、甲はその内容を乙に知らせるものとする。
 - 4 甲は、当該対象物品等を第三者の権利の目的物とすることができない。

(対象物品等の現状変更)

- 第 9 条 甲は、次の場合は必ず事前に乙から書面で承諾をとるものとする。
- (1) 対象物品等を所定の保管場所から移動し、または対象物品等に他の対象物品等を付着させ、対象物品等の一部を除去し、もしくは取り替えたりその他対象物品等の模様替えおよび改造をして、対象物品等引渡のときの現状を変更するとき。
 - (2) この契約による権利を他に譲渡し、または対象物品等を他に使用させ、もしくは担保に供するとき。
- 2 第三者が対象物品等について権利を主張したり、仮処分や強制執行をして乙の所有権を侵害するおそれのあるときは、甲はその事情を乙に知らせるものとする。

(契約内容の変更)

- 第 10 条 甲は、必要のあるときはこの契約の内容を変更し、または対象物品等の賃貸借を中止させることができる。
- 2 前項の場合において、乙が損害を受けるときは、甲はその損害を賠償しなければならない。賠償額は甲乙協議して定める。

(事情変更による契約内容の変更)

- 第 11 条 契約締結後において、天変事変その他不測の事態に基づく経済状態の激変により、契約内容が著しく不相当と認められるに至ったときは、その実情に応じ甲または乙は、相手方と協議の上、契約金額、賃貸借期間その他の契約内容を変更することができる。

(契約の解除)

- 第 12 条 甲は、次の各号のいずれかに該当する場合には、本契約を解除することができる。
- (1) 乙が、賃貸借期間内に契約を履行する見込みがないと認めるとき。
 - (2) 乙が、正当な理由がなく着手期限が過ぎても着手しないとき。
 - (3) 乙が、正当な理由がなく公立大学法人滋賀県立大学会計規則（平成 18 年公立大学法人滋賀県立大学規則第 4 号）第 34 条第 1 項の規定による監督または検査の執行を妨げたとき。
 - (4) 乙が、建設業法（昭和 24 年法律第 100 号）の規定により、営業の停止を受け、また許可を取り消されたことについて通知を受けたとき。
 - (5) 乙が本契約の入札等にあたり談合その他の不正行為をしたとき。
 - (6) 乙、乙の役員等（乙の代表者もしくは役員またはこれらの者から県との取引上の一切の権限を委任された代理人をいう。）または乙の経営に実質的に関与している者が、次のいずれかに該当するとき。
 - ア 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号。以下「法」

という。)第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という。)であると認められるとき。

イ 法第2条第6号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という。)であると認められるとき。

ウ 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を与える目的をもって、暴力団または暴力団員を利用していると認められるとき。

エ 暴力団または暴力団員に対して資金等を供給し、または便宜を供与するなど、直接的もしくは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、または関与していると認められるとき。

オ 暴力団または暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ アからオまでのいずれかに該当する者であることを知りながら、これを不当に利用するなどしていると認められるとき。

(7) 前各号に掲げるもののほか、乙またはその代理人が、公立大学法人滋賀県立大学契約事務取扱規程または契約条項に違反したとき。

2 乙は、談合その他入札不正行為により契約が解除されたときは、契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に甲に支払わなければならない。

(誓約書の提出)

第13条 乙は、滋賀県暴力団排除条例(平成23年滋賀県条例第13号)の趣旨にのっとり、暴力団等に該当しないことを表明・確約するため、別紙2の「誓約書」を契約締結時に甲に提出するものとする。

(対象物品等の滅失・棄損)

第14条 対象物品等の滅失、盗難等により、甲が対象物品等の現有を失い、乙の所有権が回復する見込みのないとき、または対象物品等が損傷して修理不能のときは、甲は直ちに乙に通知するものとし、乙が契約の継続が困難と判断した場合は、この契約は終了する。

2 前項の事由が甲または乙のいずれかの責により生じた場合は、第11条の規定による解約金に相当する額(以下「解約金相当額」という。)を相手方に支払うものとする。

3 乙が保険金を受け取ったときは、その限度において解約金相当額より差引する。

(乙の権利)

第15条 乙は、対象物品等に乙の所有である旨および乙との対象物品等であることの表示をつけるものとする。

2 乙またはその代理人は、いつでも対象物品等をその保管場所で点検することができる。

3 対象物品等に対する公租公課に変動が生じた場合は、甲乙協議の上賃貸借料を変更することができるものとする。

(対象物品等の譲渡制限)

第16条 乙は、本契約の存続中、甲の承諾なしに対象物品等および本契約から生じる権利義務を第三者に譲渡し、または承継させてはならない。

(秘密保持)

第17条 乙は、その職務上知り得た甲の業務上の内容を利用し、または第三者に漏洩してはならない。

(管轄裁判所)

第18条 この契約について訴訟の必要が生じたときは、甲の事務所の所在地を管轄する裁判所を第一審の裁判所とする。

(疑義についての協議)

第19条 この契約に定めのない事項またはこの契約について疑義が生じた場合は、公立大学法人滋賀県立大学会計規則（公立大学法人滋賀県立大学規則第4号）その他の法令の定めるところにより、甲乙協議して定めるものとする。

(信義誠実等の義務)

第20条 甲乙は、信義を重んじ、誠実にこの契約を履行しなければならない。
本契約の証として本書2通を作り、当事者記名捺印のうえ、各自1通を保有する。

令和 年 月 日

甲 滋賀県彦根市八坂町2500

公立大学法人滋賀県立大学

理事長 井手 慎司 印

乙 (所在地)

(企業名)

代表者役職 代表者氏名 印

誓 約 書

（あて先）

公立大学法人滋賀県立大学理事長 井手 慎司

私は、公立大学法人滋賀県立大学が滋賀県暴力団排除条例の趣旨にのっとり、大学の事務または事業から暴力団員または暴力団もしくは暴力団員と密接な関係を有する者を排除していることを承知したうえで、下記の事項について誓約します。

なお、公立大学法人滋賀県立大学が必要と認める場合は、本誓約書を滋賀県警察本部に提供することに同意します。

記

- 1 私または自社もしくは自社の役員等が、次のいずれにも該当する者ではありません。
 - (1) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「法」という。）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）
 - (2) 暴力団員（法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）
 - (3) 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を与える目的をもって、暴力団または暴力団員を利用している者
 - (4) 暴力団または暴力団員に対して資金等を供給し、または便宜を供与するなど、直接的もしくは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、または関与している者
 - (5) 暴力団または暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有している者
 - (6) 上記（1）から（5）までのいずれかに該当する者であることを知りながら、これを不当に利用するなどしている者
- 2 1の（2）から（6）に掲げる者が、その経営に実質的に関与している法人その他の団体または個人ではありません。

令和 年 月 日

〔法人、団体にあつては事務所所在地〕

住 所 _____

〔法人、団体にあつては法人・団体名、代表者名〕

（ふりがな）

氏 名 _____ 印

〔代表者の生年月日・性別〕

生 年 月 日 （明治・大正・昭和・平成） 年 月 日 性別（男・女）

